

# 「英語力の指標」としての 英検

2010年12月16日  
(財)日本英語検定協会

# 英検とは

## <History>

1963年創設・延べ受験者8300万人

## <Scope>

受験者年間約230万人

## <Accessibility>

本会場400(主要約230都市)・準会場約20,000で実施

# 「英語力の指標」としての英検 ～7つのポイント～

1. 7つの級設定
2. 4技能を評価
3. 出題の視点(話題・題材／文法事項／語彙)
4. 受験者へのフィードバック
5. 英検Can-doリスト
6. 外部基準との関連
7. 海外留学

# 1. 7つの級設定

級	段階
1級	自立型使用者段階(上級) (必要に応じて学習しながら)いろいろな場面で英語を使用することができる。
準1級	
2級	自立型学習者段階(中級) 指導者からの自立が徐々に進み、指導者がそばにいなくても学習を進められる。
準2級	
3級	依存型学習者段階(初級) 指導者への依存度が大きく、指導者がいないと学習が進みにくい。
4級	
5級	

自分のレベルにあった目標設定で、無理なくステップアップ。

## 2. 4技能を評価

	一次試験(筆記)	二次試験(面接:対面式)
1級	R / L / W(課題作文)	スピーチ / Q&A
準1級		ナレーション(4コマイラスト) / Q&A
2級	R / L / W(語句整序)	音読 / ナレーション(3コマイラスト) / Q&A
準2級		音読 / イラスト描写(2コマイラスト) / Q&A
3級		音読 / イラスト描写(1コマイラスト) / Q&A
4級		
5級		

- ・ 一次試験(筆記)合格者に対して、二次試験(面接)を実施。
- ・ 二次試験合格をもって受験級の合格者とする(4級と5級は一次試験のみ)。

**英語を知識としてだけでなく、実際に活用できるかどうか。**

## 3-1. 出題の視点(話題・題材)

級	話題・題材(「広がり」と「深み」の段階的变化)
1級	社会性の高い、幅広い話題・題材 (例)政治、経済、テクノロジー、芸術など
準1級	
2級	社会性のある話題・題材 (例)海外文化、歴史、教育、科学など
準2級	
3級	日常生活の身近な話題・題材中心 (例)家族、友人、趣味、買い物など
4級	
5級	

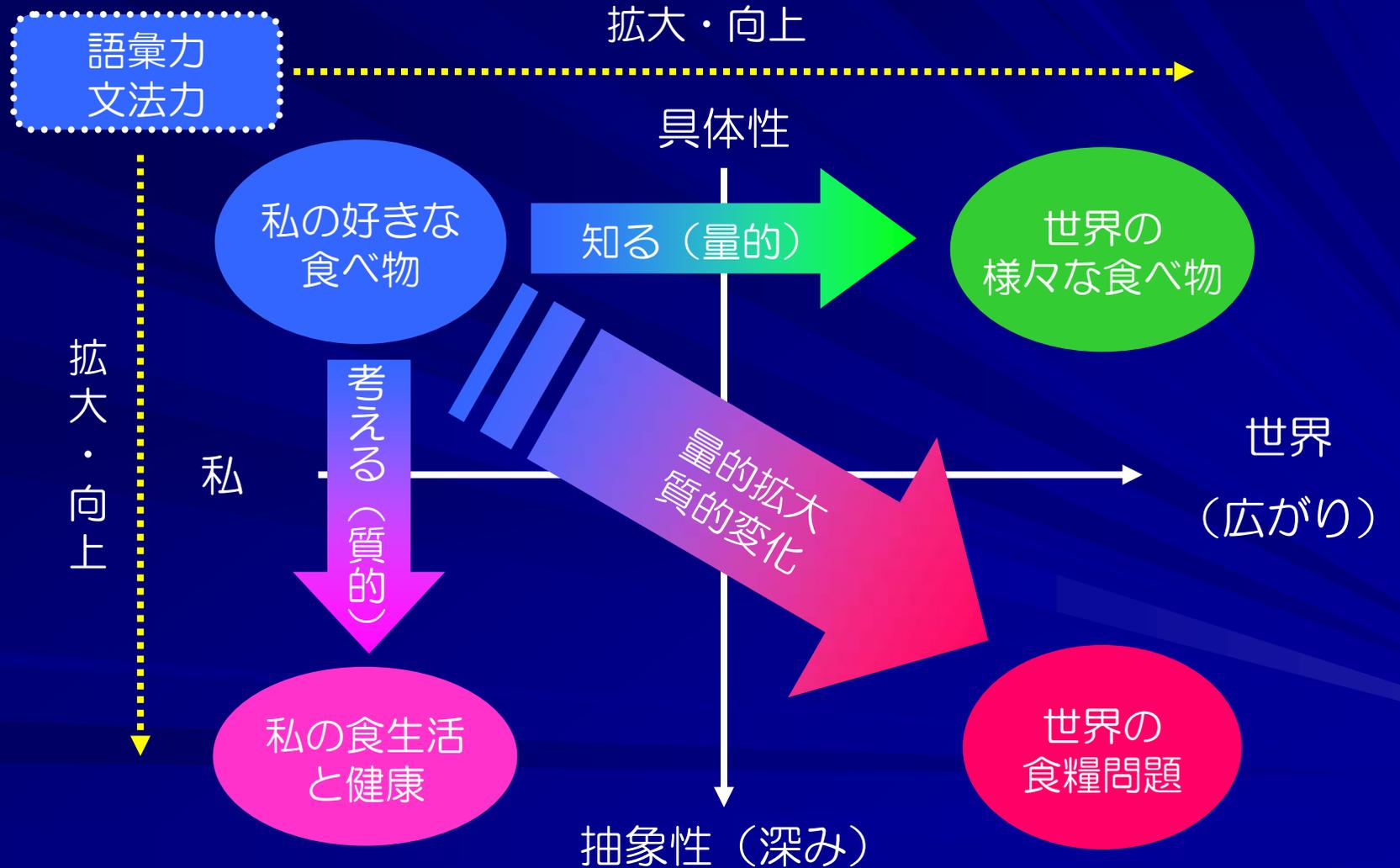


認知的負担  
大

認知的負担  
小

(財団法人 日本英語検定協会「試験の内容」)

# <補足> Food:「広がり」と「深み」



(柳瀬, 2009)

## 3-2. 出題の視点(文法事項)

級	文法事項
1級	「文法事項」に焦点を当てた出題はない。
準1級	
2級	高等学校学習指導要領に示された「文型(文構造)」、および検定教科書での使用状況を参考にしながら問題作成。
準2級	
3級	中学校学習指導要領に示された「文型(文構造)」、および検定教科書での使用状況を参考にしながら問題作成。
4級	
5級	

- ・ 毎回出題した問題の分析を踏まえて継続的に内容・難易度を調整
- ・ 一部の新作問題について難易度把握のための大規模サンプルテストを毎年実施

## 3-3. 出題の視点(語彙)

級	語彙
1級	社会性の高い、幅広い話題に対応できる語彙 ただし、特別な専門知識を前提とする問題はない。
準1級	
2級	高等学校教科書(「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「リーディング」)に出ているすべての語彙をデータベース化し 問題作成の際に参考。
準2級	
3級	中学校検定教科書(1年生用～3年生用)に出ているすべての語彙をデータベース化し、問題作成の際に参考。
4級	
5級	

- ・ 毎回出題した問題の分析を踏まえて継続的に内容・難易度を調整
- ・ 一部の新作問題について難易度把握のための大規模サンプルテストを毎年実施

## 4. 受験者へのフィードバック

### <一次試験>

① 受験結果(合否・得点・グラフ)

※合格者には二次試験受験票

② 受験者の解答状況

③ 分野別得点

④ 大問別得点・出題のねらいと学習アドバイス

⑤ データで見る英語学習(アンケート調査によるデータ)

⑥ 英検合格のメリット

⑦ 「英検Can-doリスト」

### <二次試験>

① 受験結果(合否・スコア・グラフ)

② 分野別得点とその評価ポイント

③ 英検合格のメリット

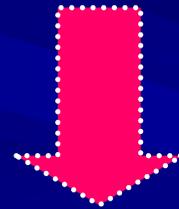
④ 「英検Can-doリスト」

<資料「個人成績表」>

## 5-1. 英検Can-doリスト

(英検Can-doリストとは?)

- 各級合格者が「英語でできる自信の高いもの」をリスト化
- 延べ2万人を超える各級合格者へのアンケートに基づく  
(2006年公開)



**各級合格者にどのような英語運用能力があるのか、  
技能別に具体的にわかる。**

<資料「英検Can-doリスト」>

## 5-2. 英検Can-doリスト ～活用の視点～

(学習者) 学習目標、運用目標が具体的につかめる

(教員) 指導上での目標設定になる

(企業) 人事の際の参考資料になる

## 6-1. 外部基準との関連 (CEFR)

1. Common European Framework of Reference for Languages の略。ヨーロッパ評議会によって公開された言語の違いを超えた6段階の指標。(Council of Europe, 2001)
2. 公開以来、言語教育政策や各種テストの指標として世界各地で注目されている。

CEFR		英検
熟達した	C2	—
言語使用者	C1	1級
自立した	B2	準1級
言語使用者	B1	2級
基礎段階の	A2	準2級
言語使用者	A1	3級・4級・5級

(財団法人 日本英語検定協会「英検とCEFRの関連性について」)

## 6-2. 外部基準との関連 (TOEFL® test)

	PBT(ペーパー版) (310~677)	iBT(インターネット版) (0~120)
1級合格者	600	100
準1級合格者	550	80
2級合格者A*	500	61
2級合格者	450	45
準2級合格者	400	32

\*「2級合格者A」とは、2級合格者で一次試験のスコアが「正解率75%以上」の者

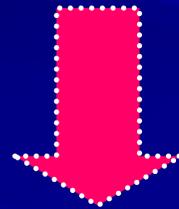
<注> PBTとiBTのスコアの関係は *TOEFL® iBT Scores* (Educational Testing Service, 2005) に基づく。

(Hill, 2010; (財)日本英語検定協会 “Research”)

## 7-1. 海外留学

国内の大学・高校などでの入試優遇、単位認定  
のみならず、

350以上の海外の大学において、  
語学力証明資格として認定されている。



**英検で海外留学・進学ができる！**

## 7-2. 海外留学

### 1. 留学申請の際、英語力の証明として英検資格を認定

<対象> 1級合格者、準1級合格者、2級合格者

### 2. 認定教育機関

アメリカ合衆国、カナダ、英国、オーストラリア、  
ニュージーランドの各種教育機関  
(大学院、4年制大学、2年制大学、公立専門学校等)

<資料「英検で海外に進学しよう!」>

# 「英語力の指標」としての英検

級	目標設定(英語教員) 達成目標(学習者)
1級	
準1級	英語教員
2級	
準2級	高等学校卒業段階
3級	中学校卒業段階
4級	
5級	

← 英語を使用する活動を積み重ねながらコミュニケーション能力の育成を図る授業を行うことのできる英語力(及び教授力)を備える。

← 日常的な話題について通常のコミュニケーションができる。

← 挨拶や応対、身近な暮らしに関わる話題などについて平易なコミュニケーションができる。

(文部科学省, 2003)

英検  
Can-do  
リスト  
(2006)  
の能力  
記述文

# 参考文献

Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge, Cambridge University Press

[吉島茂／大橋理枝訳・編(2004)『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社]

Hill, Y. Zhang (2010). “How do EIKEN grades predict the TOEFL® scores?” Paper presented at the 2010 JALT, Nagoya

財団法人 日本英語検定協会「試験の内容」  
<http://www.eiken.or.jp/exam/index.html>

財団法人 日本英語検定協会「英検とCEFRの関連性について」  
<http://www.eiken.or.jp/eikentimes/special/20091101.html>

財団法人 日本英語検定協会 “Research”  
<http://stepeiken.org/research>

財団法人 日本英語検定協会「英検で海外留学」  
<http://www.eiken.or.jp/ryugaku/step/step01.html>

文部科学省 (2003) 「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」

柳瀬和明 (2009) 「話題・題材の『広がり』と『深み』」 『STEP 英語情報』5・6月号